

部課名		文化スポーツ振興部文化振興課											
課の使命		誰もが文化芸術に親しむことができるよう、市民の文化芸術活動の振興や、魅力ある文化芸術とふれあえる環境づくりに取り組みます。そのための環境整備、鑑賞機会の創出、活動支援、情報発信を行います。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定				中間確認				年度末確認					
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	-	町田の文化の振興	文化芸術施策を戦略的に推進していくため、「(仮称)町田市文化芸術のまちづくり計画」を策定します。この計画は、身近な町田発の文化芸術を発信することで、市民や来訪者の興味・関心を高め、一人でも多くの人が文化芸術に親しめることを目的としています。 そこで、市内の文化芸術イベント情報を発信する「町田市文化芸術プロモーション」のインスタグラムの内容を向上させ、さらに市民等の文化芸術への興味関心を高めていきます。	①計画策定-骨子の策定 ※事業者ヒアリングや他市比較等を行い、現状を再分析した上で、計画策定することとしました。 ②町田市文化芸術プロモーションのインスタグラムのフォロワー数	①策定完了 骨子策定完了 ②1,300人	○	①5月～9月にかけて、町田市内の文化芸術団体等25団体に、団体の活動内容等についてヒアリングを行いました。 7月の第4回庁内検討委員会、8月の第4回懇談会において、骨子(案)の作成に向け、事業者ヒアリングと他市比較の中間報告について報告し、町田市の文化芸術の特徴について検討しました。 ②1,280人 定期的に文化芸術情報を発信していることに加え、イベント主催者に対し、積極的に投稿依頼の声掛けを行ったことで、幅広いジャンルの文化芸術情報を発信することにつながり、フォロワー数が増加しました。	①2022年度から実施してきた「町田市文化芸術に関する市民意識調査」や事業者ヒアリングなどの基礎調査の結果と、町田の文化芸術の特徴を踏まえ、計画骨子を策定します。 ②財団が開始したアーティストバンクと連携した投稿なども行うことで、市民等の文化芸術への関心を高めていきます。	①5月～9月に行った事業者ヒアリングや、過去行ってきた基礎調査をもとに、町田市の強みや課題を分析し、計画骨子を策定しました。 策定にあたっては、庁内検討会及び懇談会を各3回行い、いただいた意見を反映しました。また、計画の目指す姿を検討するにあたっては、全国の文化芸術計画や育成事業を比較・分析しました。 ②1,380人 毎月平均15件投稿し、あわせてストーリーズの投稿も行ってきました。イベント開催時にアカウントを紹介したことなどにより、フォロワー数が増加しました。 また、財団が開始したアーティストバンクと連携した投稿を開始したことで、町田ゆかりのアーティストを広く市民等に周知する機会を作り、市民等の文化芸術への興味関心を高めることにつながりました。	①骨子策定完了 ②1,380人	C	C:目標水準を達成したためです。	①策定する計画を広く市民に周知する必要があるため、わかりやすく手に取ってもらいやすい形式を検討します。また、計画策定と平行して、文化芸術ホールのあり方について検討を進めていきます。 ②投稿内容が固定化しないよう市内で行われるイベントを幅広くキャッチし、投稿につなげる必要があります。
2	-	市内の子どもが工芸美術に触れる機会の提供	①市内の学校に通う子どもが誰でも工芸美術に親しめる環境整備を目的に、学校と連携して工芸制作プログラムを実施するため、プログラムの共同研究を行うモデル校を選定します。 ②市内小中学校工芸作品展実施に向けた学校教員の意識調査や、焼成窯の有無といった学校設備の調査を行います。	①工芸制作プログラムの共同研究を行うモデル校数 ②市内小中学校工芸作品展に向けた調査を行った学校数	①1校 ②5校	○	①町田第三小学校をモデル校の候補に定め、2025年度の工芸制作プログラムの実施の可能性について、図工科教員との打ち合わせを2回実施しました。 ②市内の小中学校各1校に対し調査を行いました。授業内で陶芸を教えた経験の有無や学校設備の概要を把握しました。	①引き続き打ち合わせを行い、プログラム内容の詳細の決定とモデル校としての確定を行います。 ②中学校3校に対して調査を実施し、市内中学校の実態把握を集中的に進めます。	①モデル校候補であった町田第三小学校の図工科教員及び陶芸作家との打ち合わせを重ねたことで、実現可能かつ有意義なプログラムを計画し、町田第三小学校をモデル校に確定しました。計画したプログラムは2025年度中に実施予定です。 ②小学校1校、中学校4校計5校に対して調査を行い、教員の意識や学校設備の把握をしました。さらに、教員との関係構築を行い、出張授業の実施依頼を5クラス分決めるなど、今後の学校連携を見据えた活動を始めました。	①1校 ②5校	C	C:目標水準を達成したためです。	①引き続き担当教員・陶芸作家と打ち合わせを行い、プログラムをモデル校で実施します。また、その実施結果を踏まえつつ、新たな工芸制作プログラムの共同研究に向けて中学校を中心に働きかけます。 ②情報収集のみに終始するのではなく、今後の学校連携事業を見据え、市内教員との協力体制を構築していきます。

年度目標設定					中間確認		年度末確認						
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進 捗 状 況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評 価	評価の 視点	課題と対応
3	-	工芸美術の魅力の発信	①市民が工芸作品に親しみ、「パークミュージアム」への期待が高まるような講座および関連イベントを企画・開催します。 ②(仮称)国際工芸美術館開館に向けて、市内・周辺の団体と連携した展覧会を実施します。	①工芸美術に関するイベント回数 ②工芸美術の魅力を伝える展覧会回数	①49回 ②2回	○	①動物型の陶磁器を作る講座など、工芸の魅力に触れていただける体験講座を計32回実施しました。 ②町田茶道会と連携した展覧会を開催するため、展示内容や関連イベントに関する打ち合わせを6回行いました。また、展覧会に用いる茶道具の写真撮影を行いました。	②町田茶道会との連携により、博物館所蔵の茶道具を紹介する展覧会を2回実施します。具体的には、12月に中央図書館でパネルを展示、1月に版画美術館で実物作品を展示します。	①陶磁器とガラスを中心に工芸の魅力に触れていただける講座を計61回実施しました。アンケートの要望などを取り入れながら、陶磁器のドアプレートを作る講座や熔けたガラスの質感を感じていただく講座など、7種の新講座を企画・実施しました。さらに、行事に積極的にブース出展したことなどにより、当初の予定より12回多くイベントを実施できました。 ②博物館所蔵の茶道具を紹介する展覧会を2回実施しました。道具の取り合わせや配置、解説の文言を町田茶道会と共に検討したことにより、所蔵作品の学術的な情報を伝えるだけでなく、茶道具が茶室の中でどのように使われているかという工芸の本質に迫る展覧会になりました。また、関連イベントとして実施した講演会では、会場がほぼ満席になるなど、茶道を通じて館蔵作品の魅力を多くの市民に伝えることができました。	①61回 ②2回	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	①②(仮称)国際工芸美術館開館後の事業を見据え、市内外の多様な団体と連携して工芸の魅力を感じていただける講座および展覧会を実施します。
4	-	収蔵作品データの整理および電子化	①(仮称)町田市立国際工芸美術館のホームページ公開に向けて、博物館所蔵作品の写真撮影を行い、キャプション(作品の情報及び解説をまとめたもの)を作成します。さらに、作品データを整理し、電子化します。 ②電子化した博物館所蔵作品の画像およびキャプションを、ホームページでの公開に先がけてインスタグラムで紹介します。	①公開用収蔵作品データの作成数 ②インスタグラムの投稿数	①180件 ②120回	○	①ガラス作品53件、陶磁器作品70件、計123件について作品データの整理と電子化を行いました。 ②ガラス作品30回、陶磁器作品30回の計60回の投稿を行いました。計509件の「いいね」が付き、作品の周知につながりました。	①ガラス作品15件、陶磁器作品65件について作品データの整理と電子化を進めます。 ②ガラス作品30回、陶磁器作品30回インスタグラムに投稿します。また、展覧会に関連するリアル動画の投稿を行い、作品の魅力発信に努めます。	①ガラス作品68件、陶磁器作品135件計203件について作品データの整理と電子化を行いました。昨年度と合わせて合計359件の電子化が完了しました。 ②ガラス作品60回、陶磁器作品60回の計120回インスタグラムに投稿しました。また、展覧会を紹介するリアル動画を2回投稿し、作品の魅力発信および展覧会の広報を行いました。	①203件 ②122回	C	C:目標水準を達成したためです。	①②2027年のデータ公開に向けて、データの整理を進めます。また、展覧会に併せてリアル動画の発信も行い、作品の魅力について広く知ってもらう効果的なSNS利用の方法を引き続き検討します。
5	事務 事業 見直し	町田国際交流センターの事業見直し	外国人支援事業の実施主体や担い手について整理し、国際交流センターの行う国際事業の見直しを行います。まずは外国人住民に対してアンケートを行い、現状や求められている支援内容を改めて把握し、課題を抽出します。	アンケートで意見聴取した件数	350件	△	80件 5月から市民課及び各市民センターにて、外国人住民の転入の受付をした際に、アンケート実施依頼のチラシを配布し20人の回答がありました。また、国際交流センターでは、センターを利用している外国人を対象に、アンケートを実施し60人の回答がありました。アンケート結果を、町田国際交流センターと共有し、日本語教室に関して、現在の支援体制から拡充する場合の方法について話し合いました。	市民課及び各市民センターで行っている外国人転入者向けアンケートについて、転入者に限らず、在留カードの券面変更など対象範囲を拡大してご案内していきます。また、国際交流センターにおいても下半期に新規利用者向けアンケートを実施します。	220件 市民課および各市民センターの窓口や町田国際交流センターの利用者に対し、アンケートを案内したことに加え、下半期には、教育センターの事業を利用している児童・生徒の保護者向けにも案内しました。また、多くの方に回答いただけるようアンケートは、英語、中国語、ベトナム語、日本語の4言語用意しました。しかし、すべての人から回答を得られず、目標達成には至りませんでした。町田国際交流センターとは、アンケート結果をもとに、課題整理を行ったことに加え、現状把握のため、ボランティアに対するヒアリングを実施しました。	220件	D	D:取り組みましたが、成果が不十分であるためです。	アンケート結果から整理した課題に対する取組を検討するとともに、十分なニーズを把握するため、引き続きアンケートを行っていきます。
6	事務 事業 見直し	ホストタウン周知事業の見直し	ホストタウン国のさまざまな魅力を市民が自ら発見できるよう、市が周知イベントを実施する形式から、市民等からホストタウン国の魅力を伝える作品を募集する形式とします。募集した作品はイベントスタジオにて展示し、関心のない市民等にも広くホストタウン国を周知できる機会を創出します。展示の際には、ホストタウンの啓発品を配布することでさらなる周知を目指します。	①応募点数 ②作品観覧者数	①50点 ②300人	○	①142点 広報まちだや、町田市公式LINEでのプッシュ通知などを活用して周知した結果、66名から142点の作品応募がありました。 ②160人 8月13日から16日までの4日間、市庁舎イベントスタジオにて、応募作品の展示とあわせてホストタウンの取組み紹介を行いました。台風の影響もあり、観覧者数は160人でした。	ホストタウン事業の周知方法として、昨年度に引き続き、さくらまつりにブースを出展し、参加者がホストタウンについて興味を持ってもらえるようPRを行います。	市民等からホストタウン関連写真の募集を行った結果、目標値を上回る作品応募がありました。しかし、イベントスタジオでの周知イベントは台風の影響により観覧者数は目標達成できませんでした。そのため、周知する機会を増やすため、さくらまつりにて啓発品を配布しながらホストタウンの取組みを紹介しました。結果として、市が講演会や展示会などの参加型イベントを実施する形式以外での周知を実施することができました。	①142点 ②160人	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続きホストタウンの取組に関する認知度を高めるため、周知活動を継続していく必要があります。

部課名		文化スポーツ振興部文化振興課 パークミュージアム担当											
課の使命		町田市市中心街地に隣接する緑豊かな都市公園である芹ヶ谷公園と(仮称)国際工芸美術館・国際版画美術館等を整備、一体的に運営するプロジェクト「芹ヶ谷公園芸術の杜プロジェクト パークミュージアム」によって、まさに新たな賑わいと交流を生みだすとともに、町田市全体の魅力向上、ブランド価値の向上を目指します。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定						中間確認		年度末確認					
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
1	重点 事業 プラン	芹ヶ谷公園” 芸術の杜” パークミュージアム「美術エ リア」の整備	(仮称)国際工芸美術館について、工事価格の適正化等を図るためのコンストラクションマネジメント業務を実施したうえで、整備工事を実施します。	芹ヶ谷公園”芸術の杜” パークミュージアム「美術エ リア」整備の進捗状 況	(仮称)国際工 芸美術館CM 業務、整備工 事実施	○	工事価格の適正化等を図るための コンストラクションマネジメント(CM) 業務を実施しました。2023年度に 実施した業務において報告された VE提案※の実現性や効果等を精 査し、その結果を設計図書に反映 させて実勢価格の確認を行いました。 ※VE提案とは、設計内容を見直 し、発注者が求める建物の機能と 工事費・工期の観点から費用対効 果の向上を図ることをいう。 また、8月19日に、工事公告を開始 し、契約に向けた手続きを進めてい ます。	12月の整備工事契約に 向けて、契約手続きを進 めます。契約後、工事説 明会を実施し、整備工事 に着手します。	コンストラクションマネジメント(CM)業務の結果を設計図書に反映し、入札手続を行った結果、落札者と仮契約を締結しました。しかし、建築工事について本契約を締結することができず、工事を開始することができませんでした。そのため、芹ヶ谷公園”芸術の杜”の実現に向けた整備スケジュールの見直しを行いました。	(仮称)国際工 芸美術館CM 業務実施、整 備スケジュールの見直し	D	D:取り組 みましたが、成果 が不十分である ためです。	工事着手前には近 隣の方々へ、工事 説明会を行うなど、 引き続き丁寧な説 明しながら、整備工 事を進める必要が あります。
2	重点 事業 プラン	芹ヶ谷公園” 芸術の杜” パークミュージアム実現に向 けた機運醸成 の取組み	芹ヶ谷公園がパークミュージアムとして町田の多様な文化芸術活動の拠点となり、より多くの人に愛される公園となるように育て、盛り上げていくための取組みを進めます。	イベント実施時の満足度	80%	◎	8月17日に「パークミュージアム」の 将来の姿を想像・創造するイベント 「Future Park Lab 2024 Summer」を 開催しました。市がホストタウンに登 録しているインドネシアの影絵や、 市内大学の学生によるライトアップ、 公園で気軽にアートを楽しむこと ができるアートトラックや、遊べる アート作品の展示等を実施しまし た。当日は多くの方にご来園いた だき、多様な文化芸術活動の拠点 としての公園の魅力や新たな活用 方法を伝えることができました。 オンラインアンケートも活用して 行った、イベント参加者を対象し たアンケートでは、満足度は99.5% となりました。	11月、12月、3月にも、事 業者や市内大学等と連 携しながら、「Future Park Lab」を実施する予 定です。引き続き高い満 足度が得られるよう企画 の準備を進めます。	芹ヶ谷公園の将来の姿をみんなで想像し、創造する市民参加型の公園活用実証実験イベント「Future Park Lab」を、2024年8月、11月、12月、2025年3月に実施しました。市がホストタウンに登録しているインドネシアの影絵や、市内就労支援施設による動物絵画の屋外展示、市内アーティストによる屋外での墨絵のライブイベント、市内大学の学生による桜・金魚をイメージしたライトアップ等を行いました。その他にも、庁内を含む様々な団体との連携による企画を行いました。いずれのイベントも多くの方が来園し、多様な文化芸術の活動拠点としての公園の新たな活用方法や、芹ヶ谷公園の魅力や伝えることができました。結果、イベント参加者を対象に行ったアンケートの満足度は99.5%となりました。	99.5%	B	B:当初の 目標を上 回る成果 が上った ためです。	・引き続き地域 の方々等との連携 を強め、関係を構築 していくことで、多 くの方に愛される 公園となるよう、 「Future Park Lab」 を継続して進めて いきます。 ・より市民が文化 芸術・自然に触れる ことができるよう、各 広報媒体をさらに 効果的に活用し、 計画的な情報発信 を進めていきます。
3	重点 事業 プラン 直し/ 事務 事業 見	「シティプロ モーション」に 関する取組	新たな財源の確保に向けて、パークミュージアムの表現に関心を持つ民間事業者に対し、企業版ふるさと納税の更なる周知を進めます。	当課の周知活動による、 企業版ふるさと納税の寄 付件数	1件	○	ふるさと納税の周知活動を、約10 社に行いましたが、上半期の寄付 は、ありませんでした。 昨年度納税いただいた民間事業者 には、周知の他、納税によるインセ ンティブとして市主催のイベントチ ラシに事業者名を記載するなど、寄 付に繋がるような取り組みを行いま した。	引き続き、パークミュージアムに関わりのある民間事業者を中心にふるさと納税の周知を進めていきます。	これまでに寄付があった事業者や事業に関わりがあった事業者約10社にふるさと納税の周知活動を行い、そのうちの1社から寄付がありました。また、事業を紹介するパンフレットを作成し、そのパンフレットからパークミュージアムの実現に新たにに関心を持った民間事業者1社、寄付がありました。結果、寄付件数は合計2件となりました。	2件	B	B:当初の 目標を上 回る成果 が上った ためです。	来年度も寄付いた だけるよう、引き続 き周知活動を進め ます。

部課名		文化スポーツ振興部スポーツ振興課											
課の使命		スポーツをする場所や機会を提供するとともに、スポーツ支援活動を支えることで、市民の健康で明るく豊かな生活を実現します。また、身近な生活の中でトップレベルのスポーツ等に親しむことができる環境を整え、活力ある社会を構築します。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	中間確認		年度末確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	重点事業プラン	(仮称)町田木曾山崎パラアリーナ整備	2013年度に策定した「町田市木曾山崎団地地区まちづくり構想」において、健康増進関連拠点として位置づけられている旧忠生第六小学校用地に、「(仮称)町田木曾山崎パラアリーナ」を整備するため、2024年度中に事業者の公募・選定を行い、2025年度からの設計・整備工事に繋がります。	事業者の公募及び選定	事業者選定	○	7月にPFI法に基づく特定事業として選定し、募集要項等の公募にかかる資料を公表しました。その後、現地見学会の開催、質疑応答を経て、事業者からの参加表明等の受付・審査等を実施し、結果を通知しました。	資格審査通過者との対話や提案書類の審査を実施したうえで、優先交渉権者の決定及び公表を行い、2024年度内に本契約を締結します。	7月から参加事業者の公募を進める中で、期日までに提案書類の提出がなかったため、11月に公募手続きを中止しました。その後、参加表明者等に対してヒアリングを実施し、参加資格要件の緩和の必要性等を確認しました。このことを踏まえ、2025年度中の再公募に向けて、募集要項等ならびに今後のスケジュールの見直しを行いました。	公募手続きの中止により、事業者未選定	D	D:取り組みましたが、成果が不十分であるためです。	2025年度中の事業者選定ならびに契約締結に向けて、再公募の準備を進めます。
2	重点事業プラン	バラスポーツの理解促進・普及啓発	(仮称)町田木曾山崎パラアリーナの整備完了後の活用に向けて、多様なスポーツへの理解を深めるため、バラスポーツ教室や体験会等を実施する等、バラスポーツの関係団体と連携した事業を実施します。	関係団体と連携した事業数	4事業	○	日本パラバドミントン連盟等と連携した事業として、市内の小学生を対象としたパラバドミントン体験会を7回実施しました。また、総合体育館で開催した、「チャレンジマッスル」において、オンラインポッチャ協会と連携した事業として、オンラインポッチャのブース出展を行い、バラスポーツの普及啓発に取り組むなどとして、計2事業を実施しました。	引き続き、日本パラバドミントン連盟等と連携した事業を実施するとともに、ブラインドサッカー協会と連携した事業も実施します。さらに、6月に締結した日本財団バラスポーツサポートセンターとの協定に基づき連携事業を実施します。	バラスポーツの普及啓発及び理解促進に向けて、関係団体等と連携・協力し、4事業を実施しました。事業内容としては、通年で市内の小学校にて日本パラバドミントン連盟と連携した体験会を開催したほか、8月にオンラインポッチャ協会と連携したイベント、1月に日本ブラインドサッカー協会と連携した体験会、2月に日本財団バラスポーツサポートセンターと連携したイベントを行いました。	4事業	C	C:目標水準を達成したためです。	東京2020大会のレガシー継承として、引き続き、関係団体等と連携・協力し、バラスポーツの普及啓発及び理解促進につながるイベントや体験会等を実施します。
3	重点事業プラン	ホームタウンチーム支援	ホームタウンチームを周知するため、チームと連携してホームゲーム情報等の発信やX(旧Twitter)・広報・ホームページ・横断幕掲出等のPR活動を積極的に行います。	広報等周知活動の取組回数	180回	◎	ホームタウンチームのPRのため、広報まちだやホームページ、応援イベントの開催、X(旧Twitter)での情報発信等を行いました。予定していた周知活動に加えて、チームのイベントに合わせたホームタウンチーム展を開催する等、周知活動を120回行いました。	引き続き、広報まちだやホームページでの周知活動を行い、ホームタウンチームの活動に合わせてX(旧Twitter)を活用した情報発信等も積極的に行っています。	ホームタウンチームのPRのため、広報まちだやホームページ、応援イベントの開催、X(旧Twitter)での情報発信、また、町田駅ペDESTリアン1号デッキのウォールギャラリーには装飾を施しました。特にXでのFC町田ゼルビア関連の情報発信は、FC町田ゼルビアへの全国的な関心の高まりを受け、町田のスポーツ情報の周知を一層進めるべく、全体の半数近くを占める127件行いました。加えて、広報まちだでは、ホームタウンチーム特集としてFC町田ゼルビアとASVベスカドーラ町田の地域貢献活動の紹介とチーム関係者のインタビューを掲載する等、広く周知活動に努め、年間で合計257回周知活動を行いました。	257回	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	引き続き、広報まちだやホームページ、X(旧Twitter)でのホームタウンチームの周知活動を行います。加えて、2025度はFC町田ゼルビアのACL出場を好機と捉え、多くの方に町田のスポーツ情報を発信すべく、さらなる周知活動に取り組めます。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
4	個別 計画	スポーツボランティア活動 支援	まちだのスポーツを「支える」、市民ボランティア「まちだサポーターズ」が活躍できる機会を幅広く提供するとともに、研修会等を実施することで活動を支援します。	「まちだサポーターズ」延べ活動人数	3,400人	○	ホームタウンチームのホームゲームでの活動や町田さくらまつり等のスポーツ以外のイベントに、上半期で延べ1,281人が活動しました。その他、新人を含む会員向けの研修を行い、スキルアップを図りました。また、活動機会を増やすため、まちだサポーターズの活用を庁内に向けて呼びかけました。	引き続き、まちだサポーターズの活動機会がより一層増えるよう、庁内に向けて周知を行います。また、まちだサポーターズのボランティア活動への参加意欲向上に向けて支援を進めていきます。	下半期は1,344人が活動し、上半期と合わせ年間で延べ2,625人の活動となりました。昨年に比べ、イベント数が減少したこと等、1つのイベントへの参加申込みが少なかったことで目標値を下回りました。この結果を踏まえ、まちだサポーターズの募集に大きな関りのあるFC町田ゼルビアホームゲームでの参加申込者数を伸ばすべく、12月には、まちだサポーターズ、市、FC町田ゼルビアスタッフによる意見交換会を実施し、1昇格初年度の会場運営を振り返るとともに、2025シーズンに向けたボランティア活動の方向性等を話し合いました。	2,625人	D	D:取り組みましたが、成果が不十分であるためです。	引き続き、安定的にボランティア活動の場を提供できるよう、広く、まちだサポーターズの周知を行うとともに、新規会員の獲得に向けた活動を支援します。また、活動意欲の維持・向上を図るため、研修会を実施します。
5	-	ワークライフ バランスの実現	週に1回の定時退庁を徹底し、職員間の情報共有・連携の強化に努めることで、一人当たりの月平均時間外勤務時間数を減らします。	一人当たりの月平均時間外勤務時間数	30時間以下/ 月	○	4月から9月までの一人当たりの月平均時間外勤務時間数は23時間40分でした。毎週月曜日の朝礼時に定時退庁する曜日を宣言することにより、意識づけの向上を図りました。またチャット等を活用し、休暇やテレワーク時でもスムーズな情報共有を行いました。	これから繁忙期を迎えますが、引き続き、定時退庁できるよう職員間で協力をし、月平均時間外勤務時間数30時間以下を目指します。	毎週月曜日の朝礼時に定時退庁する曜日を宣言することにより、意識づけを促しました。また、ボリュームのある作業系の業務等は、課全体でフォローできるよう、積極的に声掛けを行い、業務量の平準化を図りました。併せてこどもマラソンの電子申請実施や、テレワークの推奨により柔軟な働き方を推進するなど、業務見直しを図り、効率化を実現しました。こうした取組みの結果、一人当たりの月平均時間外勤務時間数は26時間となり、2023年度の30時間を下回ることができました。	26時間/月	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	目標値は達成したものの、全庁で比較すると、時間外勤務時間数が多い状況です。また、時期や職員によって時間外勤務時間数に差があるため、平準化を図っていく必要があります。
6	事務 事業 見直し	こどもマラソン 大会参加申請 の一部電子化	紙での申請受付を行っていたこどもマラソン大会について、電子申請を一部導入することにより、申請者の利便性を向上させるとともに、職員の事務量の削減を図ります。	こどもマラソン大会参加申請の一部電子化	デジタル申請 の受付開始	○	9月より電子申請による受付を開始いたしました。市のHPや各小学校等へのチラシ配布を行い、制度の周知を図りました。	参加者の取りまとめに参加希望者本人からの入力データを活用することで、大会運営準備に係る事務の効率化を図ります。大会終了後には効果検証を行います。	9月1日に開始した電子申請は、導入初年度であったため、市ホームページへの掲載や各小学校へ案内文書を配布する等、申込み方法の変更について、しっかりと事前周知を図りました。その結果混乱もなく、また、申請方法の電子化により、申請者の利便性の向上はもとより、教職員の負担軽減に加え、担当職員による参加者情報の入力作業時間を50時間程度削減し、事務の効率化に繋がりました。なお、申込みについては昨年と比べ249件増加しました。	デジタル申請 の受付開始	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	電子申請が効果的であったため、制度の定着に向け、引き続き、周知に努めます。一方、誤入力等の不備も散見されたため、更に申請者が利用しやすい環境となるよう、改善に努めます。

部課名		文化スポーツ振興部国際版画美術館											
課の使命		<ul style="list-style-type: none"> すべての来館者に対して優れた美術作品に触れる機会や創作、発表の場を提供し、美術に親しむことの喜びや感動、やすらぎをもたらします。 貴重な文化財である版画作品の収集・保存を通じて、市民の財産としての版画の価値を未来に伝えるとともに、専門性に裏付けられた版画文化に関する良質な情報発信を行います。 町田市の文化振興および文化・芸術都市としてのブランドイメージの向上に寄与します。 											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	-	魅力的な展覧会の開催	より多くの来館者楽しんでいただくため、「幻想のフラスノール—版画家たちの夢・現・幻」展や「戦間期の版画とモダニズム—1914-1939【仮】」展などの収蔵品を活用した魅力ある企画展を実施します。	企画展・特集展示の観覧者数	93,000人	○	「版画の青春 小野忠重と版画運動」展、「幻想のフラスノール 版画家たちの夢・現・幻」展の2回の企画展と、2回の特集展示を実施しました。観覧者数は約29,000人となっています。 各企画展では、講演会や対談、学芸員によるギャラリートークを開催するなど、各種イベントを実施しました。また、近隣の大学等に働きかけ、5団体・約240人の団体見学の受け入れを行いました。	64,000人を目標に「両大戦間のモダニズム」展、町田市公立小中学校作品展などの企画展を4回、特集展示を2回開催しました。観覧者数の増加に向けて、SNS広告、オンラインプレスリリース、SNS等により、効果的な広報を行います。	「版画の青春」展、「幻想のフラスノール」展、「両大戦間のモダニズム」展、新収蔵作品展、第38回町田市公立小中学校作品展、「日本の版画1200年」展の6回の企画展と4回の特集展示を実施しました。観覧者数は目標値を上回る95,924人となり、目標を達成することができました。「幻想のフラスノール」展では、鑑賞サポート用にジュニア向けワークシートを作成したほか、「両大戦間のモダニズム」展では、未就学児を対象とした「こどものための鑑賞会」を開催するなど、子どもの鑑賞教育に力を入れました。	95,924人	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き魅力ある展覧会を開催するとともに、展覧会の魅力を更に周知できるようにSNS等により当館の情報を積極的に広めていきます。
2	-	SNSによる情報発信	美術を楽しむ人を増やすために、SNSで情報の発信を積極的に行います。	SNS(X及びInstagram)の総フォロワー数	8,500人	○	展覧会の作品解説や、美術館の施設紹介、ミュージアムショップの商品の紹介、イベントの告知などを積極的に発信し、2024年9月末時点で総フォロワー数が7,543人から7,957人に増えました。	展覧会情報やイベント開催情報など、投稿内容を充実させるとともに、アクティブユーザーが多い時間帯に投稿するなどの工夫を行うことで、フォロワー数の増加に取り組みます。	投稿数(X及びInstagramの合計)を、上半期の月平均約40回から、下半期は月平均約50回に増やすとともに、季節やイベントに合わせて開催中の展覧会の作品を紹介するなどの工夫を行うことで、総フォロワー数が年度当初の7,543人から8,615人に増えました。	8,615人	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き展覧会情報やイベント情報を発信するほか、豊富な収蔵品を紹介する内容や、普及事業など、美術館の多岐にわたる活動が伝わるよう情報発信に努めます。
3	事務事業見直し	美術館ホームページの見直し	ホームページ更改後の運用状況について、定期的な解析と、それに基づくホームページの見直しを行います。	ホームページ見直し回数	4回	○	Webページのアクセス解析ツールにより、ホームページ訪問者のニーズの高いページを洗い出しました。特にニーズの高かった「交通アクセス」のページについて、経路の画像を追加するなど、わかりやすい内容に改善しました。	継続的な解析を行い、検索エンジン経由の流入が増えるよう、SEO(検索エンジン最適化)に取り組むとともに、ホームページ内で欲しい情報へ遷移しやすくするために内部リンクを適切に設置する等の見直しを行います。	下記のとおり、ホームページの見直しを行いました。 ①「交通アクセス」ページに駅からの経路説明及び画像を追加 ②トップページの外観・内観のスライド画像の刷新 ③SEO向上のため、内部リンクを適切に配置 ④「交通アクセス」ページ内にあるアクセスマップについて、駅からの徒歩ルートをわかりやすく示したものに更新	4回	C	C:目標水準を達成したためです。	SEO対策を継続的にを行い、検索エンジンからの流入数が増えるよう取り組むとともに、サイト内構造や内部リンクを工夫し、サイト内の回遊性を高めていく必要があります。
4	事務事業見直し	収蔵品データベースシステムの導入に伴う枠組みの構築	多分野にわたる収蔵品を管理するデータベース導入にあたり、必要な項目や表記の統一方法について検討し、入力・編集作業の基本的方針となる枠組みを構築します。	枠組みの構築	枠組みの構築	○	デジタル戦略室との連絡、会議での協議および事業者による講習によって、データベースに必要な項目と表記の仕方を決めるなど、枠組みの構築作業を進めています。	12月末までに枠組み構築を完了し、2025年1月からは事業者によるデータ移行作業に移り、3月にデータベースを稼働させます。	データベースに必要な項目と表記の仕方を決めるなど枠組みの構築作業を進めるとともに、データベースに格納するデータの入力・編集作業を行いました。12月に枠組みの構築を完了し、1月から事業者によって行われたデータベースへの作品データ移行作業を確認・修正して、3月にデータの移行作業を完了しました。	枠組みの構築	C	C:目標水準を達成したためです。	収蔵品の現物調査を進め、段階的なデータベース公開に向けた作業を進めていきます。